

前立腺がんに対するロボット支援前立腺全摘除術を開始しました

前立腺がんの治療方法のひとつである根治的前立腺摘除術は、従来は開創手術と腹腔鏡下手術が行われていました。開創手術は当院も含め多くの施設で以前より行われている方法ですが、傷の大きさが約10～15cmと大きいいため術後の痛みが強い、手術中の出血量が比較的多い、術後の尿失禁や勃起障害などの問題があります。腹腔鏡下手術は、腹部に径1cmほどの穴を3～5箇所開けて、長い棒状の手術機器を入れて操作をする手術で、傷が小さく術後の痛みも少ないという利点があります。しかし手術機器の操作が難しく、平面の画面を見ながらの手術は熟練しても手術時間は開創手術に比べるとやや長くなり、尿失禁や勃起障害の出現率も開創手術と同程度とされていました。

アメリカでは開創手術と腹腔鏡下手術それぞれの問題点を改善する新しい手術方法として、手術用ロボット「ダヴィンチ」を使用したロボット支援手術が急速に普及しました。すでに2000台を超える手術支援ロボットが各病院に設置され、泌尿器科をはじめ、婦人科、一般外科、心臓外科、耳鼻科などで積極的にロボット支援手術が行われており、前立腺がんに対する手術である「ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術」は、近年は前立腺全摘除術の約80%以上を占めています。

ロボット支援手術では、術者は遠近感のある立体の3次元画面を見ながら拡大した画面で手術を行います。またロボットの操作アームは非常に器用に動き、狭い空間での可動域が広いので、腹腔鏡の器具に比べより確実な手術操作が可能です。これらの特徴を生かして、より低侵襲の手術が可能となることが期待されます。

日本では、手術支援ロボット「ダヴィンチS」が2009年11月に医療用機器として薬事認可を得て、ロボット支援前立腺全摘除術は2012年4月に保険適応治療として承認され普及してきています。当院では2015年4月に、後継器である「ダヴィンチSi」を導入し、5月より治療を開始しています。

当院では日本泌尿器内視鏡学会認定ロボット支援手術プロクターの指導下に手術を行っており、安全で確実な手術を心がけております。

詳しくは泌尿器科外来にお問い合わせください。

